

# 経済港湾委員会行政調査報告

経済港湾委員会委員長 山本 のりかず

## 1. 日程および参加者

令和5年8月21日（月）～8月22日（火）

経済港湾委員会委員 11名、事務局 2名

## 2. 調査項目

- (1) 名古屋市の MICE 施策、ポートメッセ名古屋について（名古屋市）
- (2) 中部国際空港について（中部国際空港株式会社）
- (3) 愛知県国際展示場について（愛知県）
- (4) 静岡市歴史博物館について（静岡市）
- (5) 清水港の取組について（静岡市）

## 3. 委員長所見

### (1) 名古屋市の MICE 施策、ポートメッセなごやについて

名古屋市国際展示場は、地元ではポートメッセなごやと愛称が付けられており、国際見本市会場として名古屋市金城埠頭に昭和48年に建設されました。今回視察した第1展示館は2022年10月にオープンし、利用率は約51パーセントとのことでしたが、今年度、2023年7月までの予約状況は約62パーセントとなっているとのことでした。新第1展示館は、日本最大級の2万㎡の無柱空間が広がっており、現場を視察させていただくと、見本市やコンサートなどを開催する主催者側の融通がきく施設整備になっている印象を受けた次第です。

また、ソフト面においては、ファミトリップ——MICEを企画するような方などを招いて名古屋を知っていただく事業を実施されており、昨年実施したのが、北米圏のミーティングプランナーを招いた事例で、愛知・名古屋を知っていただく機会となり、今後インセンティブツアーの企画を期待しているとのことでした。ただし、MICEの性格上、準備に時間もかかるため、現時点では成果が出た

というものはない点にご理解いただきたいとのことでした。

神戸の国際展示場は、最初の施設が建設されて40年以上経過しており、他都市の国際展示場の再整備を踏まえると、神戸市においても時代に応じた施設の在り方を検討していかなければならないことを強く感じた次第です。



## (2) 中部国際空港について（中部国際空港株式会社）

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度の航空旅客数はコロナ前の2019年度と比較して6分に1に減少したが、2023年度は約7割に回復する見込みとのことです。中部国際空港の国際線としての特徴は、これまでは中国便が約4割を占めており、東アジアや東南アジアをメインターゲットにしていましたが、これからは欧米便を視野に入れて運航路線を計画していくことも必要との認識でした。そして、当該空港は世界最高評価「5スターエアポート」を4回連続で獲得しており、お客様にとって分かりやすい動線づくりや空港内の清潔さなどが評価され、空港の価値を高めております。ハード面において、国土交通省(中部地方整備局)は、中部国際空港西側沖合における公有水面埋立ての承認願書を愛知県へ提出し、2022年5月に承認されるなど第二滑走路整備に向けた動きも進んでおり、今後の動向に注目していきたいと思っております。

また、空港を目的地とした誘客に向けた取組について、ボーイング787初号機の展示をメインとした複合商業施設(フライト・オブ・ドリームズ)などがあり、誘客に向けて一定の効果があることが推察されます。将来的な神戸空港の国際化を見据えて、神戸空港の魅力向上のため独自性を発揮していく必要がある

と考えます。利用者目線に立って考え、非日常を日常で感じることができる空間も併せて整備していかなければなりません。これからの神戸空港の発展に期待することです。



### (3) 愛知県国際展示場について (愛知県)

2019年8月に開業した日本初の国際空港から直結している国際展示場です。そして、日本最大級の60,000㎡展示面積を有しており、6つの展示ホールの一部は無柱の空間が広がっており、日本唯一の常設保税展示場であることが特徴です。加えて、国際展示場の各箇所には、愛知県産の素材を随所に活用しています。当該展示場整備構想は、2016年2月に発表し構想から3年半で開業した経緯があります。各委員からは積極的な質疑があり、さきのポートメッセなごやと併せて、これからの神戸国際展示場の在り方を考えるにあたり、大いに参考になった次第です。



#### (4) 静岡市歴史博物館について（静岡市）

現場視察の際は、1階に「戦国時代末期の道と石垣の遺構」が展示されており、近くで当時の人々が行き来したであろう道を想像することができ、まさに当時の歴史を体験できる展示となっています。また、2階と3階では徳川家康の展示がされており、2023年の大河ドラマ「どうする家康」も放映されていました。

加えて、歴史街道や明治新政府を支えた人材の紹介、清水港の歴史など幅広い視点で歴史に触れることができる施設であり、神戸市立博物館でも、展示方法について参考になる箇所があった次第です。



#### (5) 清水港の取組について（静岡市）

神戸港とは規模は違いますが、港湾管理者である静岡県が主体となり、国と静岡市が一体となって、公共投資の推進と関係団体と協力することで清水港の長期構想の実現に取り組んでいます。視察させていただいた「日の出地区」においては、国際クルーズ拠点整備を進めており、他都市の港と同様に競争優位性を担



保するため CIQ 機能や複数クルーズ船用岸壁整備を推進しております。

また、港湾内における回遊性を高めるため、水上バスなどを利用した運航を実施しており、実際に乗船してみました。後方デッキはオープンで潮の匂いや風を感じながら移動できた次第です。当日は、曇りがかかっていたましたが、快晴の日であれば富士山を見ることができ、他港と差別化できる唯一無二の港ではないでしょうか。神戸港でも、既に取り組んでいるところもありますが、港と六甲山との連携をもう一度考える機会となりました。



今回の視察では、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行して初めての管外視察となり、副委員長をはじめ各委員の全員参加により、訪問先の自治体関係者様と活発な意見交換ができました。行程がタイトにも関わらず、調整していただいた事務局担当者の方々には感謝申し上げます。神戸の発展のため、重責を担う議員各位におかれては、これからのご活躍に期待するとともに、私自身も今年度の委員長職を全力で取り組んで参ります。